

第6学年国語科学習指導案

児童 男子10名 女子6名 計16名
指導者 榎原 正弥

1 単元名・教材名

新聞の投書を読み比べて意見をまとめよう「新聞の投書を読み比べよう」(東京書籍 6年)

2 単元について

(1) 児童について

- ・4月単元「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、事実と意見との関係に注意して、筆者の考えを読み取り、文章に対して自分の考えをもつ学習を行った。
- ・大半の児童が、文章の要旨を読み取ることができたが、それに対して自分の考えをまとめることができた児童は半数くらいだった。

(2) 教材について

- ・本教材は、スポーツをすることの目的(意味)について書かれた1つの投書につなげて寄せられた3つの投書を紹介したもので、本学級はスポーツをしている児童が多いことから、興味をもって読むことができると思われる。
- ・4つの投書が同じ構成で書かれているため、文章構成が捉えやすい。
- ・文章に説得力をもたせるための工夫が具体的に示されているので、自分で投書を書く際にも活用することができる教材である。

(3) 指導にあたって

〈手立て1〉単元全体や単位時間ごとの見通しをもたせる工夫

①学年の系統性と児童の実態をふまえた単元構想の作成

- ・本単元では、新聞の投書を読み比べて学んだ説得の工夫などを使って、自分の意見を投書として書く言語活動を設定する。児童が、それぞれの投書について書き手の主張を捉えるとともに、構成や説得の工夫を見付け、「投書の書き方のポイント」をまとめさせる。それらのポイントを使って実際に投書を書くことで、意欲的に学習に取り組むことができ、本単元の指導事項「文章を比べて読むなど効果的な工夫をしながら、文章に表れている書き手の工夫について読み取ること」を身に付けることができると考えた。

②単元の導入の工夫

- ・本単元の学習に向けて、事前に小中学生が投稿した投書に触れさせることで、新聞や投書に対する関心を高めておく。
- ・教材文に書かれてある投書を参考に教師が作成した2つの投書を提示し、実際に比べ読みをさせることで本単元で身に付けさせたい力に気付かせ、単元名と学習計画の作成につなげる。

③学習計画づくり

- ・第二次までに学習する文章に説得力をもたせるための工夫を生かし、第三次で自分の投書を書くための学習計画を教師と共に大まかに立てる。
- ・第二次では、投書の文章の文章構成を捉えることや、文章に説得力をもたせるための工夫を見つける学習をすることを伝え、大まかに時間配分をする。
- ・第三次では読み手を意識しながら投書を書き、グループで読み合ったり、意見を伝え合ったりすることを伝える。

④単位時間の見通しをもたせるための工夫

- ・児童と共に作成した学習計画表を掲示し、本時はどのような学習をするのかを確認させる。

- ・単位時間の学習課題や一人学び、ペア・グループ学習の視点を具体的に示すことで、児童が見通しをもって学習できるようにする。
- ・単位時間の流れに沿ったワークシートを作成し、学習活動に見通しをもたせる。

⑤次の学習につなげる振り返りの工夫

- ・学習課題を確認した後、単位時間の流れを確認したり、振り返りの視点を示したりして、一単位時間の学習意欲の持続につなげる。
- ・単位時間の振り返りを学習計画と一体化したシートに個別に書かせ、見通しをもって次の学習につなげるようにする。

〈手立て2〉学校図書館などの利用目的を明確にし、その機能の活用を図る工夫

①単元の中で読書意欲を高める工夫

- ・図書コーナーに新聞を置くコーナーを用意し、新聞に対して興味や関心をもたせる。
- ・投書だけではなく、社会欄やスポーツ欄などにも触れさせることで、興味や関心を高めさせる。

②発達段階に応じた情報収集や選択、活用方法の指導の工夫

- ・新聞を置くコーナーのそばに、投書だけを取り上げたコーナーを用意し、選んだ投書の内容について感想や意見を記入できるようにする。

③魅力ある図書館運営の工夫

- ・一般的な新聞のほか子ども新聞なども展示し、新聞にも本にも触れられるようにする。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

4つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えをまとめることができる。

(2) 単元の評価規準

【関】投書の特徴を捉え、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。

【読】投書の構成、理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて読み比べ、それぞれの書き手による説得の工夫を捉えている。C (1) イ

【言】投書の文章の構成を目的とともに理解している。伝国 (1) イ (キ)

(3) 単元の系統性

	4年	5年	6年
単元名 教材名	身の回りの文章を読みくらべよう 「広告と説明書を読みくらべよう」	書き手の意図を考えながら新聞を読もう 「新聞記事を読みくらべよう」	新聞の投書を読み比べて意見をまとめよう 「新聞の投書を読み比べよう」
目 標	広告と説明書の文章を読み比べ、それぞれの目的に合わせた表現の違いを読み取ることができる。	記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。	4つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り自分の考えをまとめることができる。
おさえた 主な 学習用語	表し方の違い (工夫)	書き手の意図	書き手の (説得の) 工夫
		見出し・リード (文)	
	広告・説明書	記事	投書

4 指導計画（全9時間）

次	時	主な学習活動 ★図書館との関わり	評価規準とその方法
一	1	○新聞の投書について知り、説得の工夫を考える。 ○投書をまとめるための学習計画を立てる。	【関】新聞の投書の書き方について関心を持ち、書き手の工夫があることを感じながら意欲をもって取り組もうとしている。 (発言・ワークシート)
	2 本時	★新聞記事や投書に関心を持ち、学習と並行して読んでいくことを知る。	
二	3	○4つの投書を読み比べ、それぞれの投書について書き手の主張を捉え、構成や説得の工夫を見付ける。	【読】同じ内容を取り上げた4つの投書を比べて読み、そこに書き手の意図・工夫が表れていることを理解した上で、自分はどうか考えるかを明確にしている。 (発言・ワークシート)
	4	○4つの投書の中から、自分が納得するものを選んで理由をまとめ、友達と伝え合う。	
	5		
三	6	★自分が読んで関心をもった投書を選ぶ。 ○4つの投書の内容や、自分が読んで関心をもった投書などを基にして、投書に取り上げたい話題と自分の考えをまとめ、文章を書く。	【読】自分の意見や主張を述べる際の説得の工夫にはどのようなものがあるかを理解している。 (発言・ワークシート)
	7		
	8	○学習を振り返る。	【言】文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。 (ワークシート)
	9		

5 学習計画表

									【計画】
三			二			一			
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
単元のふり返りをする	書いた投書を読み直して仕上げる	投書を書く	投書に書くことを決める	教科書の投書を使って学習する (投書に対し自分の意見を持つ) ③	教科書の投書を使って学習する (説得の工夫) ②	教科書の投書を使って学習する (書き手の主張・文章構成) ①	投書を書くための学習計画を立てる	投書について知る	<p>新聞の投書を読み比べ、自分の意見をまとめよう。</p> <p>【身に付けていきたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投書の文章構成をとらえる力。 ・書き手の説得の工夫をとらえる力。

6 本時の指導

(1) 目標

新聞の投書について知り、書き手の説得の工夫を考え、投書（意見文）をまとめるための学習計画を立てようとする。

(2) 評価規準

おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
新聞の投書の書き方について関心をもち、書き手の工夫があることを感じながら意欲をもって取り組もうとすることができる。	書き手の意見を伝えるために工夫しているところはどこか、2つの文章を比べながら違いを見付けさせる。

(3) 展開

時	学習活動	指導上の留意点（・）	評価（◎）
導 入 15 分	1 単元のゴールを知る ・ 今回の学習では、自分の考えを伝えるため、投書にまとめる学習を知ることを知る。	〈手立て1-②〉 本単元の学習に向けて、事前に小中学生が投稿した投書に触れさせることで、新聞や投書に関心を高めておく。	
	2 課題を把握する 自身の意見を投書にまとめるための学習計画を立てよう。	〈手立て2-③〉 第三次で投書を書き、キラハピコーナーに掲示したり、新聞社に投稿したりすることを目標にする。	
	3 見通しをもつ ・ 本時は、投書の書き方の工夫を知ることと、学習計画を立てることを行うことを確認する。 ・ 本時の振り返りの視点を確認する。	〈手立て1-④〉 学習計画表を示し、本単元で身に付けていきたい力、単元名、9時間分の計画を立てるという見通しをもたせる。 〈手立て1-⑤〉 本時の振り返りの視点を示し、一単位時間の学習意欲を持続させる。	
展 開 20 分	4 課題を解決する ・ 2つの投書を読み、気付いたことを発表し合う。 【個別→ペア→全体】 ・ 説得の工夫をした方が、書き手の意見がより伝わりやすいことを確認する。 ・ 書き手の意見が伝わる投書をまとめるために、どんな力を身に付けた方がよいかを考える。 【個別→全体】 ・ 本単元での身に付けていきたい力を基に単元名を設定する。 【個別→全体】	・ 説得の工夫を入れた投書と入れていない投書を比べ読みさせ、共通点（文章構成）と相違点（説得の工夫）に気付かせる。 〈手立て1-③〉 気付いた共通点と相違点から、本単元で身に付けたい力や単元名を設定する。 〈手立て2-①〉 学習と並行して、小中学生が投稿した投書を読み、感想を書いていくことを確かめる。	

	<p>5 まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三次で説得の工夫をしながら投書をまとめる学習をすることを確認する。 ・学習計画を立てる。 【全体】 	<p>〈手立て1-③〉</p> <p>本単元で身に付けていきたい力を参考にして、学習計画を立てさせる。</p> <p>◎新聞の投書の書き方について関心をもち、書き手の工夫があることを感じながら意欲をもって取り組もうとしている。(発言・ワークシート)</p>
終末	6 振り返りをする	<p>〈手立て1-⑤〉</p> <p>本時の振り返りの視点に基づき、振り返りをさせる。</p> <p>・次時は、教科書に載ってある4つの投書を読んで書き手の意見と根拠について考えていくことを知らせる。</p>
10分	7 次時の確認をする	

(4) 板書計画

<p>○ふり返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習で身につけていきたい力を理解することができたか。 ・しっかりと学習計画を立てることができたか。 	<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> </table>											<p>○学習計画表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身につけていきたい力 ・投書の文章構成をとらえる力。 ・書き手の説得の工夫をとらえる力。 	<p>○説得の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルを読んで気づいたこと ・どちらの投書も佐々木投手のこと ・文章構成がどちらも一緒 ・アンケートの結果が入っている。 	<p>課題</p> <p>自分の意見を投書にまとめるための学習計画を立てよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 投書のモデルA 説得の工夫が入っていないもの </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 投書のモデルB 説得の工夫が入っているもの </td> </tr> </table>	投書のモデルA 説得の工夫が入っていないもの	投書のモデルB 説得の工夫が入っているもの
投書のモデルA 説得の工夫が入っていないもの	投書のモデルB 説得の工夫が入っているもの															